

企画展『路面電車の走る街 ～都市の交通と電気～』 開催概要

タイトル：企画展『路面電車の走る街 ～都市の交通と電気～』

開催期間：平成 22 年 11 月 30 日(火)～平成 23 年 3 月 6 日(日)

開催場所：電気の史料館（神奈川県横浜市鶴見区江ヶ崎町 4 - 1）(詳細は別紙 2)

企画展構成：

コーナー .「路面電車の誕生」

1890（明治 23）年に東京・上野公園で開催された第三回内国勸業博覧会で、東京電燈が日本で初めて電車を運行しています。汽車による鉄道は、東海道線など長距離の幹線を中心に路線を拡大しましたが、本格的な市街地の交通手段としては電車の登場を待たなければなりませんでした。日本で最初の電車の営業運転は、京都で始まり、それ以降、市内交通としての路面電車が、名古屋、東京、大阪、横浜など全国の主要都市に誕生していったのです。

このコーナーでは、東京汐留鉄道御開業祭礼図(錦絵)、電車鉄道のチラシ、京都電気鉄道車両模型などを展示します。



日本で最初の電車
[『東京電燈株式会社開業五十年史』より]

コーナー .「東京の路面電車」

東京の路面電車は、1903(明治 36)年～1904(明治 37)年に東京電車鉄道・東京市街鉄道・東京電気鉄道の民営 3 社によって始められました。その後、合併し東京鉄道となり、さらに 1911(明治 44)年からは東京市営になりました。

それまで日常的に馬車や人力車に乗れる人は、相応の収入がある人に限られ、ほとんどの人は徒歩で移動していましたが、路面電車の登場で、そのような状況は一変しました。こうして東京の市内交通として定着した

市電は、東京都電となり、第 2 次大戦後の全盛時には営業距離が 200 キロメートルに達し、東洋一を誇りました。現在は、荒川線以外の路線が廃止されています。

市電や都電だけではなく、王子電気軌道(王電)と玉川電気鉄道(玉電)についても紹介します。

このコーナーでは、都電 5500 形、8000 形模型、東京電気鉄道外濠線用ステップレール、都電停留所表示板、都電銀座線廃止記念文鎮などを展示、都電の映像や鉄道唱歌を視聴できます。さらに、昭和中期の都電が走る風景のジオラマを展示します。



東京都電 5500 形模型 鉄道博物館所蔵

コーナー .「横浜・川崎の路面電車」

横浜の路面電車は、1904(明治37)年に民営の横浜電気鉄道が開業したのに始まりますが、その後、横浜市に買収され横浜市電となりました。

関東大震災や第2次大戦により甚大な被害を受けますが、1950年代には営業距離50キロを越え、最盛期を迎えます。しかし、自動車の普及による交通事情の悪化により全廃されました。

一方、川崎市電は、戦時中の1944(昭和19)年に日本で最も新しい市電として誕生しています。市電川崎を起点に、1952(昭和27)年、塩浜まで乗り入れていましたが、最終的には全廃されました。

このコーナーでは、横浜市電1500形模型、車外番号板、方向幕、ポールトップなどの実物や、川崎市電やトロリーバスの写真パネルを展示します。さらに、横浜市電運転台をイメージした記念撮影コーナーを設置します。



山手トンネルを出る横浜電気鉄道5形
[『横浜電気鉄道株式会社新線路写真帖』より]
横浜開港資料館 所蔵

コーナー .「路面電車の現在と未来」

日本の主要都市のほとんどにあった路面電車も、現在は17都市・19事業者にとどまり、路線延長も250kmまで減少しましたが、地域の足として今日も走り続けています。また、路面電車の新規整備が検討されている都市もあります。

欧米各国では、中心市街地の衰退や排気ガス問題などの深刻化を受けて再評価の機運が高まり、新路線が開業したり、中心市街地への自動車乗り入れを禁止し路面電車と歩行者だけを通行可能とするトランジットモール方式や、自動車を郊外の駐車場にとめ路面電車で中心市街地に入るパーク・アンド・ライド方式など、様々な試みが続けられています。

このコーナーでは、現在の国内外の路面電車を写真パネルで展示し、また、現役路線として人気の高い江ノ電にスポットを当て、「江ノ電100年のあゆみ」を紹介します。さらに、東京・横浜・川崎については、保存されている路面電車の場所を地図でご案内します。



フランス パリ
(社)日本交通計画協会 所蔵

以 上